

小平西地区地域ネットワーク

瀧口 優・西方 規恵・午頭 潤子・森山 千賀子・井原 哲人

活動実績の概要

はじめに

小平西地区地域ネットワークが発足したのは、東日本大震災のちょうど1年後である。震災と津波の被害は、日頃の結びつきが困難を乗り越える力になることを示していた。小平市や品川区において人間発達資源について研究をしていたメンバーは、小平に地域ネットワークを作ることを決意し、学内や地域に呼びかけた。

その結果大学世話人として15人、地域世話人として15人の参加を得て「小平西地区地域ネットワーク」(以下「西ネット」)をスタートさせた。小平市の西部を南北に通る府中街道から西側を範囲とした地域を対象としたネットワークづくりである。

年間4回の地域懇談会と5回の地域世話人会、そして大学内の世話人会をほぼ毎月行い、3ヶ月ごとにニュースを発行してきた。地域を4つのブロックに分け、ブロックごとに世話人会を組織して懇談会ごとに分かれて顔の見える関係を作ってきた。しかしこの地域は小平市の四分の一にあたり、住人の数も4万人ほどになる。1つの町にあたる大きさである。そこに顔の見える関係をつくることは簡単ではない。

2年目に第4ブロックでコミュニティ・サロン「さつき」がオープンし、顔の見える地域作りの形がスタートした。以後第3ブロックにはコミュニティサロン「きよか」が、第2ブロックではこの2月より中島地域センターでのコミュニティカフェがスタートした。このコミュニティサロンの形は、小平中に広がり、地域作りのシンボルともなっている。

なお小川公民館をお借りして中学生の勉強会を

スタートして6年になる。ボランティアで講師を行っている人々も10人を超え、白梅学園大学の学生も参加している。

1. この1年を振り返って

(1) 経過

<2019年>

- ・ 4月16日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 5月07日(火) 地域世話人会及び世代間交流学会実行委員会
- ・ 6月04日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 6月11日(火) 2019年度第1回懇談会(「小平西のきずな」30号発行)
- ・ 7月09日(火) 地域世話人会及び世代間交流学会実行委員会
- ・ 7月16日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 9月03日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 9月10日(火) 地域世話人会及び世代間交流学会実行委員会
- ・ 9月24日(火) 2019年度第2回懇談会(「小平西のきずな」31号発行)
- ・ 10月06日(日) 日本世代間交流学会第10回大会
- ・ 10月08日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 10月19日(土)～20日(日) 白梅祭展示
- ・ 11月12日(火) 大学世話人会及び世代間交流学会事務局会議
- ・ 11月19日(火) 地域世話人会及び世代間交流学会実行委員会

- ・12月03日（火） 大学世話人会
- ・12月17日（火） 2019年度第3回懇談会（「小平西のきずな」32号発行）

<2020年>

- ・1月14日（火） 大学世話人会
- ・2月04日（火） 地域世話人会
- ・2月18日（火） 大学世話人会
- ・3月09日（月） 2019年度第4回懇談会（中止）
（「小平西のきずな」33号発行）
- ・3月17日（火） 大学世話人会

(2) 総括

上記の経過で示されているように、年間のスケジュールに沿って会議が行われ、全体としての運営は着実に進んでいると言える。ただし年が明けてからのコロナウイルス問題で懇談会がはじめて実施できなかったということが出てきている。それから2月に入って7年間継続してきたコミュニティサロン「さつき」が大家さんの都合で部屋を明け渡すことになり、一時は存続も心配したが、鷹の台駅そばの民家が借りられることになり、4月から新たなスタートを切ることができるようになった。なおウイルスの関係で3月と4月の活動を休止しなければならず、地域の居場所がなくなってしまった状態が続いている。

各ブロックが地域に係わって様々な会議や取り組み、交流に参加してきており、青少年祭、公民館祭り、防災訓練、バザー等多様なネットワークづくりをすすめてきている。

行政との連携という点では、白梅学園大学として小平市と包括連携協定を結び、国立市とも子育て支援の視点から連携協定を結ぶことになったが、「さつき」の移転などにあたっては複数の部署から応援があり、日頃のつながり生きているということが見えた。

研究の面からは、今年は日本世代間交流学会の第10回大会を白梅学園大学で実施し、西ネットが全面的に支援して内容の充実をはかった。実行委員長（森山）事務局長（瀧口）をはじめとして、

実行委員会を地域世話人会が窓口となった。

中学生の勉強会「分かった会」では今年も全ての中学校3年生が高校に進学し、あらたなスタートを切ることになった。10人を超えるボランティアの講師と、白梅学園大学の学生の参加もあり、子どもたちの力となっている。

(3) 課題

昨年4月より西ネット設立8年目に入った。地域世話人会、地域懇談会は定着してきたが、各ブロックの取り組みが中心になってきたこともあって参加者などの広がりはできていない。またブロックも単位としては大きいので更に細分化した区域でのまとまりが求められてきている。高齢者を中心とした地域包括が、生活支援体制整備事業と重なって、現在小平市を9の「第二層」に分けている。その3つが西ネット関わるもので、この2層との協力体制も求められる。更にこの地域の生活支援の窓口となる民生委員は20人ほどになり、こうした人々との連携も進めなければならない。

ただし大学としてそれに対応するには限界があり、大学としての支援体制を構築していかなければならない。そのことが大学への入学者に貢献することはもちろん、特に幼稚園や中学校においては大きな意味を持っていると思われる。

実践的にはすすめてきているが、こうした取り組みの理論的な基盤などについて大学や地域の世話人会で議論することができていない。10周年に向けてぜひ議論をすすめた。